



体育館の暑さ対策として活用された県の電気自動車と外部給電器(右下) = 1日、坂井市三国高

電気自動車風を起こせ

三国高文化祭で活用 扇風機動力源に

環境に優しい次世代自動車の普及を推進する県は1日、坂井市三国高の文化祭会場で、電気自動車の電力で大型扇風機を動かす取り組みを行った。電力が足りない体育館内の暑さと新型コロナウイルス対策として実施し「威力」を發揮した。県は電気自動車から電気

を取り出し、電化製品の電源として活用できる「外部給電器」を今春導入。1500ワットのコンセントが3口あり、催しや防災訓練時の電源供給など、さまざまな用途に活用できる。三国高では、体育館の電力不足のため、大型扇風機を複数使ったブレイカーが

落ちる課題があり、例年、電源ドラムを複数使って校舎から体育館につないでいた。県は電気自動車用の外部給電器の活用を広く呼び掛けており、同校は熱中症対策として利用することにした。

メイン会場の第1体育館横に電気自動車を配置。生徒たちによるステージ催しが繰り広げられる中、扇風機5台のほか、冷風機、スポットクーラー各1台を動かした。

学校祭担当の吉田孝文教諭は「電源確保に苦労してきたので助かる。暑さ対策に加え、多くの風を送って換気もできるので新型コロナウイルス対策として効果的」と話した。

(山口晶永)